

## 完熟きんかんの早期出荷による 所得向上に向けた支援

東臼杵南部農業改良普及センター  
(東臼杵農林振興局)

### 1 活動のねらい

管内の完熟きんかんは、平成2年から栽培が始まり、栽培面積は8.9haにまで拡大し、出荷量も順調に伸び、ピーク時には259トンの出荷がありました(図1)。

それに伴い、販売額も順調に増えてきましたが、販売単価は宮崎県内全域の709円/kgに対し、管内は671円/kgと価格差があり、これは管内のきんかん出荷量の大半が、価格が安くなる2月下旬から3月上旬に集中していることが要因としてありました(図2)。

そこで、6月下旬の一番花を安定的に結果させることで、出荷時期の早進化による単価の高い1月中旬からの出荷と、労働配分による雇用費の削減という面から、所得向上に向けた支援を行いました。

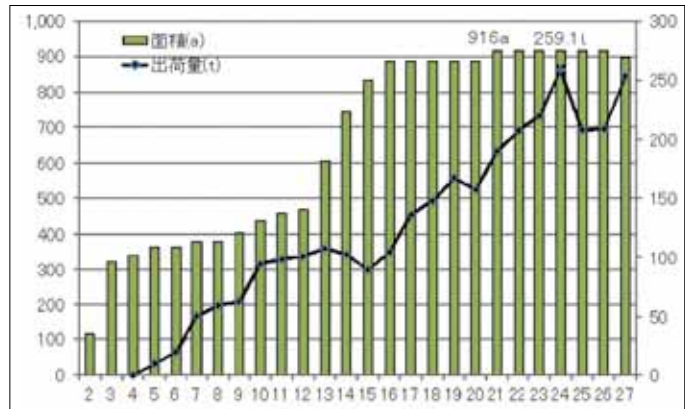


図1 管内の完熟きんかん栽培面積、出荷量の推移

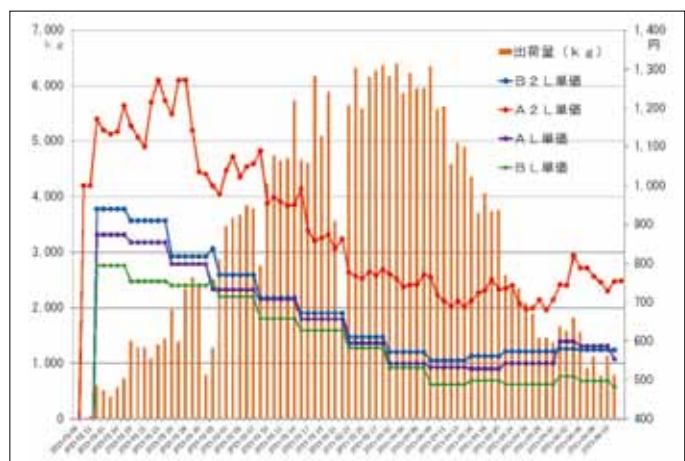


図2 日ごと出荷量、単価の推移(平成26年)

### 2 活動の経過又は普及の関わり

(実証圃の設置)

早期出荷を推進した当初(平成20年)は、開花期の加温のみを行ったものの、6月下旬に安定した着果が得られず、さらには、年によっては加温しなくても6月下旬に一番花が開花することもあり、生産者からは「わざわざ加温しなくても良いのではないか」という意見が多くありました。

そこで、普及センターでは、関係機関と連携して開花期加温を中心とした実証圃を設置し、その他の管理方法についても確認を行いました。

実証圃の結果から、開花期加温と合わせて、剪定から開花期までの生育ステージごとの管理が重要であることが分かり、その技術を実践に実施するよう継続的に働きかけを行いました。

(経営分析)

早期出荷に向けた取組にかかる経費を明らかにするため、実施農家からデータを提供してもらい、詳細な経営分析を行いました。

その結果、暖房経費がかかるものの、出荷時期が早進化したことで販売単価が向上し、さらに、労力が分散されることにより雇用費が削減され、所得の向上につながる事が分かりました。

	加温実施者
平成20年	1名
平成21年	6名
平成22年	4名
平成23年	1名
平成24年	2名
平成25年	3名
平成26年	4名
平成27年	14名

表1 加温実施者の推移

### 3 活動の成果

平成26年に早期出荷に取り組んだ生産者は、単価が高い2月までの出荷量が増え、地域平均販売単価より259円/kgアップしました。

また、実践農家から「早期出荷に取り組むことで儲かる」という経営面のメリットを説明してもらったところ、農家の関心が高まりました。

平成20年から実証してきたデータの蓄積により、開花期の加温のみでなく、その他の管理の重要性に気づき、総合的な管理を普及拡大したことで、早期出荷実現に向けた総合的な管理を理解し実践する生産者が大幅に増え、平成27年は部会員31名中14名で取り組まれました(表1)。



図3 早期出荷に向けた栽培管理講習会

### 4 今後の方向

近年、早期出荷に取り組む生産者は増えていますが、管内の出荷は、依然として単価の安い3月の出荷量が多いことから、複数ハウスを所有している生産者を中心に推進していきます。

また、海外輸出を視野に入れ、酸味のない、美味しいきんかんを作るためにも本技術の導入を推進し、生産者の所得向上を目指して支援していきます。



図4 技術導入による生産メリット循環図

### 5 対象集団又は対象農家の声

- ・早期出荷に向けた管理をすることで一番花の開花・着果が安定するため、単価が高い2月までに出荷できる量が増えた。
- ・今後は、全員が開花期加温に取り組めるよう、部会員全員に働きかけたい。
- ・普及センターには、技術支援をお願いしたい。